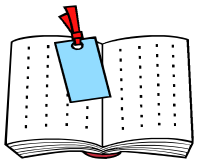
資料１



授業お助けアンケート（国語）

名前（　　）

◎もし、みなさんが授業中に困っていることがあれば教えてください。

先生が参考にして、手助けをします。（この紙は、だれにも見せません）

テストではありませんので、気楽に〇をつけてください。

NO.	授業中に、つぎのことがありますか？ あてはまるところに、〇をつけましょう。	ない	たまにある	時々ある	よくある
1	音読の時に、読んでいる場所が分からなくなる。				
2	音読の時に、読み間違う。				
3	音読の時に、目がチカチカする。				
4	新しく習う漢字が、なかなか覚えられない。				
5	黒板のまわりのいろいろな物が見えて気がちる。				
6	先生が言葉だけで質問をすると、意味が分からない。				
7	先生が何を話したのかが分からない。				
8	友達が発表した話の意味が分からない。				
9	「さあ、始めましょう」と言われたときに、何をしていいのかが分からない。				
10	いろいろな音が聞こえて気がちる。				
11	つい体を動かしてしまう。				
12	つい後ろや横を向いてしまう。				
13	つい手悪さをしてしまう。				
14	つい出歩いてしまう。				
15	ついおしゃべりをしてしまう。				

上のこと以外に、困っていることがあれば書いてください

資料２

必要な支援をつかむチェックリスト（国語）

（「授業お助けアンケート」教師集計用）

月　　日　　年　　組　　名

【活用の仕方】

①児童自身が「授業お助けアンケート」（資料１）に回答をします。

②教師が集計し、各項目ごとの人数を割り出します。

③集計結果から、学級の児童は、自分自身でどこにつまずいていると感じているのか、また、学級の児童にはどのような支援（視覚・聴覚･運動感覚にかかわる支援）が必要なのかをつかみます。

④「教室のユニバーサルデザイン」（資料３）を活用し、学習環境を整えます。

⑤「授業のユニバーサルデザイン」（資料４）を活用し、授業中の具体的な支援を行います。

NO.	授業中に、つぎのことがありますか？ あてはまるところに、〇をつけましょう。	ない	たまにある	時々ある	よくある	必要な支援
1	音読の時に、読んでいる場所が分からなくなる。	名	名	名	名	**視覚**にかかわる支援
2	音読の時に、読み間違う。	名	名	名	名	
3	音読の時に、目がチカチカする。	名	名	名	名	
4	新しく習う漢字が、なかなか覚えられない。	名	名	名	名	
5	黒板のまわりのいろいろな物が見えて気がちる。	名	名	名	名	
6	先生が言葉だけで質問をすると、意味が分からない。	名	名	名	名	**聴覚**にかかわる支援
7	先生が何を話したのかが分からない。	名	名	名	名	
8	友達が発表した話の意味が分からない。	名	名	名	名	
9	「さあ、始めましょう」と言われたときに、何をしていいのか分からない。	名	名	名	名	
10	いろいろな音が聞こえて気がちる。	名	名	名	名	
11	つい体を動かしてしまう。	名	名	名	名	**運動感覚**にかかわる支援
12	つい後ろや横を向いてしまう。	名	名	名	名	
13	つい手悪さをしてしまう。	名	名	名	名	
14	つい出歩いてしまう。	名	名	名	名	
15	ついおしゃべりをしてしまう。	名	名	名	名	

資料３

教室のユニバーサルデザイン

物理的な環境	教師の対応	友達との関係
１．すっきりとした環境構成 ①前面の壁の掲示物を精選する（できるだけ少なくする） ②前面の黒板は端から端まできれいにする 例プリント類を貼らない 例連絡事項などを書かない ③教卓の上に余分な物はおかない ④整理棚などは必要に応じて目隠しをする 例カーテンをかける ⑤個人ロッカーや机の中を整理･整とんする 例片付け方を絵や写真で表示する **２．騒音を排除する** ⑥児童用の机と椅子の脚に古テニスボールなどを装着する **３．見通しを持たせる** ⑦一時間、一日、一週間、一ヶ月の予定を目に見える形で示す **４．座席への配慮** ⑧気がかりな姿がある児童の座席を教師の配慮が行き届きやすい位置にする 例教室前方、教師の近く ⑨気がかりな姿がある児童の前や隣の席をだれにするか考慮する 例気がかりな姿のある児童にとって、行動のお手本となるような児童を充てる **５．当番表の作成** ⑩だれが何をするのかを明確にする 例一人に一当番を割り当てる ⑪活動の手順を示す	**１．温かな対応** ①不安を取り除く基本スキル*1 を身に付ける（「みつめる」「ほほ笑む」「話しかける」「ほめる」「触る」） **２．机間指導** ②指導内容が伝わっているかどうかの確認をする ③きちんと課題に取り組んでいる児童を見逃さずにほめる ④一斉指導と個別指導との効果的な組み合わせを考える 例指導は「全体」→「個」の順で行う **３．忘れ物への対応** ⑤貸出用の教材や文房具類を十分に用意する **４．給食指導** ⑥児童に不公平感を抱かせない配膳のシステム*2を確立する 例一通り配膳が終わった後に、「友達と比べて少ないなあと思う物がある人は、持っていらっしゃい」と言って持ってきた児童の器につぎ足す ⑦児童に不公平感を抱かせないおかわりのシステム*3を確立する ⑧食物アレルギーや宗教上の理由による制限がある児童への配慮をする ⑨偏食児童への配慮をする **５．宿題の出し方** ⑩負担にならない程度の量にする 例コース選択制 ⑪児童が興味･関心をもって取り組める内容にする	**１．温かな友達関係づくり** ①言われると嬉しくなる言葉を増やす（「ふわっと言葉」） 例「だいじょうぶ？」「ありがとう」 ②言われると悲しくなる言葉を減らす（「ちくっと言葉」） 例「早くしろよ！」「うるさい！」 ③友達の「いいとこ探し」 ④誕生日のお祝いをする 例牛乳での乾杯や歌、楽しい学級イベントなど **２．知的な雰囲気作り** ⑤学級内にルールを確立し、男女の仲をよくする活動を行う 例五色百人一首*4を活用する ⑥協力感や助け合い感を向上させる活動を行う 例ふれ合い囲碁*5を活用する **３．学習ルールづくり** ⑦「話し方」「聞き方」のめあてを示す 例聞いている人の方を向いて話そう 例うなずきながら聞こう ⑧「発表の仕方」を提示する 例「ぼくは、～だと思います。そのわけは、～だからです」 ⑨「声の大きさ」を提示する 例「隣同士で話す大きさ」 「教室の友達に話す大きさ」 「校庭や体育館で話す大きさ」など **４．対人関係力の向上** ⑩QUを活用する ⑪ソーシャルスキルトレーニングを行う

*1平山諭著『発達障害児の授業スキル』麗澤大学出版会　*2*3向山洋一著『教え方のプロ・向山洋一全集34　ささやかな場面での子どもとのつきあい方』明治図書　*4東京教育技術研究所　*5安田泰敏著『命を救う「ふれあい囲碁」』生活人新書

資料４

授業のユニバーサルデザイン

視覚にかかわる支援	聴覚にかかわる支援	運動感覚にかかわる支援
１．導入 ①フラッシュカードを活用する 例既習漢字、輪郭漢字など **２．漢字指導** ②筆順が色分けされたワークを活用する ③★補助線入りのワークシートを活用する **３．音読指導** ④読んだ回数の〇印を塗る ⑤役割分担をして劇化する ⑥★ルビ付き教材文を活用する ⑦★リライト教材文（読みやすく書き直した文）を活用する ⑧★リーディングスリット（一行空き台紙）を活用する **４．辞書引き指導** ⑨教科書の調べる語句を囲む ⑩辞書の調べた頁に付箋を貼る **５．提示** ⑪教材文を大きく提示する（電子黒板や拡大紙） ⑫ＩＣＴ機器を活用する ⑬１時間の学習の流れを提示する ⑭いつまでやるのかを提示する 例時計盤や板書で時計針の位置を表し、終了時刻を提示する **６．読み取り指導** ⑮学習のめあてや取組がはっきりと分かるようなワークシートを活用する ⑯ペープサートを活用する ⑰「中心人物」「山場」など、読み取りの手がかりとなる「ものさし」を提示する **７．発表指導** ⑱教科書の文章に観点ごとに色分けした線を引き、読み方の工夫がしやすいようにする ⑲役割分担をして音読をする 例お面や名札などを活用し、役割を可視化する **８．板書の配慮** ⑳文字の大きさ・配列・レイアウトを考える 例児童のノートと同じ様式のマス目黒板を使う ㉑書くスピードに変化をつける 例説明の言葉に合わせて書く ㉒色チョークの使い方に配慮する 例赤色を使わない、蛍光色を使う ㉓黒板に等間隔の番号や・印を打ち、児童が板書する位置を示す	**１．漢字指導** ①音声化・言語化する 例「業」→「たてたて、ちょんちょん、よこちょんちょん･･･」 例「親」→「木の上で立って見ている親」 例「爪につめなし、瓜につめあり」 **２．音読指導** ②教師の範読 ③追い読み 例一文ずつ教師の後に続いて読む ④一文交代読み 例教師と児童、男子と女子、教室の左右などに分かれて一文ずつ交代して読む **３．発問・指示の出し方、説明の仕方** ⑤短く区切って出す ⑥一文一動詞の言葉で出す 例「教科書〇ページを開きます」 ⑦発問と作業指示は対にして出す 例「発問～したのはだれですか。指示ノートに書きましょう」 ⑧抽象語を少なくし具体的に話す 例「そこにおいて」→「机の上において」 ⑨指示の追加は行わない ⑩質問調の追い込みをしない 例「今、何の時間ですか！」→「今は〇〇をする時間です」 ⑪肯定的に話す 例「おしゃべりをしてはいけません」→「今は〇〇をします」 **４．語調の変化** ⑫声の大きさや抑揚、速さに変化をつける ⑬「ゆっくり」「強く」「繰り返し」を使い分ける **５．集中を促す** ⑭話しかける前に名前を呼ぶ ⑮発問や指示を出す前に一瞬間をおく ⑯どれだけやるのかを示す 例「あと〇回やろう」 ⑰予告する 例「では、大事なことを話します」 ⑱話をする前に持っている物をおくように言う 例「これから大事なお話をします。手に持っているものをおきましょう」 ⑲目をつぶるように言う 例「先生が読みますから、目をつぶって聞きましょう」	**１．漢字指導** ①指書き*1（鉛筆を持たずに、筆順を唱えながら指で机の上に漢字を書く） 例「お手本を見なくても書けるようになるまで練習しなさい」 ②なぞり書き*2（薄い色で書かれた字の上を鉛筆でなぞる） 例「１ミリもはみ出さないようになぞるのですよ」 ③写し書き*3（手本を見ながら書く） ④空書き（教師は児童に正対し、左手、鏡文字で一緒に人差し指で空中に書く） ⑤お隣チェック 例起立し、席の隣同士で習った新出漢字を机の上に指書きし、合っているかを確認する。二人とも合っていたら腰掛ける **２．音読指導** ⑥起立読み 例「自分で１頁読みます。読めたら腰掛けなさい。全員起立」 （特定の児童が常に最後まで立っていることのないように、数名になったところで腰掛けさせるなどの配慮をする） ⑦「竹の子」読み（あらかじめ読む箇所を選択しておき、自分の読む箇所がきたら起立して読む。読み終わったら腰掛ける） ⑧動作化 例登場人物になりきる **３．自然に動ける場面づくり** ⑨ペア（班）学習をする 例「お隣同士（班）で相談してごらんなさい」 ⑩児童が板書をする 例「ノートに書けた人は、黒板に書きましょう」 ⑪ミニ先生をする 例「できた人は、友だちのミニ先生をしましょう」 ⑫児童に配付を依頼する 例「〇〇を配ってくれる人？」 ⑬自分の考えを書く 例「ノート(ワークシート)に一つ書けたら腰掛けます。全員起立」 例「ノート(ワークシート)に一つ書けたら持っていらっしゃい」 ⑭意見を交流する 例「席を立って、他の友達と話し合ってもいいです」

注：★印の支援は、使用するかどうかを児童が選択することができる。　*1～*3『あかねこ漢字スキル』東京教育技術研究所

資料5

中心人物は誰かを考えよう

年　組（　　）

中心人物＝物語のほとんどに出てきて、心の動きが書かれている人物のこと。

ぼくは、この物語の中心人物は

[　　]

だと考えます。

わたしは、

その理由は

[　　]

からです。

★根拠となる考え方

[　　]　[　　]　[　　]

資料6

残雪をつかまえるための作戦に名前をつけよう

年　組（　　）

1の場面
大造じいさんが準備した物

・・・

作戦

2の場面
大造じいさんが準備した物

・・・

作戦

3の場面
大造じいさんが準備した物

・・・

作戦

資料7

この物語の山場の一文をさがそう

年　組（　　）

山場＝中心人物（大造じいさん）の気持ちや行動がいちばん大きく変わるところ

一文＝句点（　。）から句点（　。）までのひとまとまりの文

山場の一文は、□ページの□行目～□ページの□行目の

だと考えます。

なぜなら、

からです。

（理由の書き方の例）

なぜなら、○○の考えが、～から　～に変わったからです。

なぜなら、○○がなかったのに、突然　～が起こったからです。

なぜなら、それまでは○○だったのに、急に　～したからです。

資料8

『大造じいさんとがん』の主題を考えよう

年　組（　　）

一、大造じいさんの気持ちの変化を考えよう

〈はじめ〉

残雪に対して、

・・・・

と思っていた

大造じいさんが、

〈きっかけ〉

ことによって

〈おわり〉

残雪を

と思うように

なる話。

二、主題を考えて書こう

主題＝作者がこの物語でいちばん伝えたいこと。